

28 阿地第 35 号
平成 28 年 7 月 12 日

東海旅客鉄道株式会社
中央新幹線長野工事事務所
所長 古谷 佳久 様

阿智村リニア対策委員会
会長 稲垣 孝光

リニア中央新幹線整備に関する質問書について（お願い）

阿智村では、村・議会から東海旅客鉄道株式会社（以下、JR 東海という）と長野県に対して、平成 25 年 11 月 1 日、平成 26 年 1 月 9 日、平成 26 年 7 月 8 日に提出された意見書・要望書をふまえ、リニア中央新幹線建設工事（以下、リニア工事という）によって発生する住民の生活環境や経済・観光に及ぼす影響について、社会環境アセスメントを実施しました。

阿智村リニア対策委員会は、「リニア工事に伴う環境の整備、保全及び適正な土地の利用を図るために必要な調査、審議及び対処する」村の諮問機関です。リニア工事を受けるか否かを判断する機関ではありません。

今回、当委員会は、村・議会の意見書・要望書、平成 27 年 9 月 28 日、12 月 15 日に行われたリニア学習会での貴社の回答、社会環境アセスメント委員会の提言を受け、リニア工事による住民の不安や要望の解決の糸口を探るとともに、貴社と阿智村のリニア工事に関する環境保全等の協定の締結に向けて、質問書を提出するものです。

お手数とは存じますがこれもリニア中央新幹線の推進に必要なことと考えますので、信義を重んじ文書及び説明資料にてご回答をいただきたくお願い申し上げます。

質問① 住民との合意について

平成 26 年 10 月 22 日、阿智村リニア対策委員会（前委員会）、同年 11 月 12 日阿智村中央公民館での住民説明会で「地元の理解・合意が得られなければリニア工事は着工できない」と説明されました。

しかしマスコミ報道によると平成 28 年 4 月 27 日大鹿村説明会では、「住民の理解、合意ができたかどうかは事業者である JR 東海が判断する」と発言されたとあります。

（質問）

- ①-1 現在までの阿智村や議会、住民の要望に対しての貴社の説明やご回答から阿智村住民は「地元住民の理解、合意ができなければ JR 東海は工事着工しない」と考えていますが、それに相違ありませんか。

①-2 工事を進めるにあたり、阿智村において地元の協議調整が必要な事項や時期について、貴社の計画・考えを具体的にお示し下さい。また、現在までに協議調整された事項があれば、どのような内容であるのか改めてお示し下さい。

①-3 「住民の理解や合意」は事業者、説明者である貴社ではなく「事業による影響が予測され、事業者より説明を受ける側である住民の認識、判断によるもの」と私達は理解しています。

平成 28 年 4 月 27 日の大鹿村説明会でのご発言について説明下さい。また、住民からの合意が得られたとの判断する基準をお示し下さい。

質問② 協定書の締結について

貴社におかれては、環境保全に関することは環境影響評価書に記載しているので改めて環境保全全般についての協定は結ばないとの説明ですが、工事用車両の年間運行日数、1 日当たりの運行時間、運行距離、通行道路の整備状況等によって環境は違ってきます。

各自治体、地域によって住民の受ける環境影響度の受忍限度にはそれぞれ相違があります。また、現在取り組んでいる地域振興等にも影響が及ぶことを懸念しています。

(質問)

②-1 リニア工事着工前に工事用道路、工事用車両の運行に関わるだけでなく現在の環境がリニア関連工事によって発生が予測される悪影響への軽減、代替処理について、全国一律の基準対応ではなく当該地域への影響度を加味した協定書の締結が必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

②-2 昼神温泉や四季豊かな自然は、阿智村にとって大切な地方創生の観光資源である。この観光資源の保全について実効力のある協定を締結することを必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

②-3 発生土運搬の大型ダンプ通行に伴う騒音・振動や工事関連の影響による諸問題についての生活環境保全のための協定を締結する必要があると考えていますが、貴社の考えをお示し下さい。

質問③ 発生土の処理及び工事用車両の削減について

③-1 発生土置き場の崩壊、流出に対する対策と、施工（造成）基準を具体的にお示し下さい。

③-2 萩の平坑口付近は急峻な地形の上流域ですが、発生土の仮置きヤードをどのように考えていますか。

③-3 村道 1-20 号線や国道 256 号などを利用する住民の間で、発生土運搬用の大型ダンプの通行は大きな脅威と感じられ不安を感じている住民が多くいます。発生土運搬のリスク軽減のために、村道 1-20 号線、黒川上流域での発生土置き場（仮置き、本置き場）の可能性の再検討、再調査をお願いしたいが貴社の考えをお示し下さい。

③-4 日曜日、お盆、正月以外は工事を行う計画のようだが、観光シーズン中の土

日、祝祭日に観光客が集中し混雑している状況にあり、計画通りの運行は難しいと考えますが、貴社の考えをお示し下さい。

- ③－5 沿線住民の負担軽減を図るための発生土運搬の平準化についてどのようにお考えか。またそのためには、工期が延びる、1日の工事時間が長くなることが予想されるが、平準化の方法や工期についてお示し下さい。

質問④ 工事用道路について

- ④－1 萩の平坑口から国道 256 号までの間は急峻な地形でカーブの多い狭隘な道路です。資機材、生コン搬入の工事用専用道路を強く希望すると共に現道改良の場合は、安全確保のため全線 2 車線化が必要かと考えますが、貴社の考えをお示し下さい。
- ④－2 発生土の運搬ルートに関し合理性や効率ではなく、安全安心の視点から考察いただけますよう望みます。1-20 号線利用だけでなく別ルートの再検討が必要と考えますが、貴社の考えをお示し下さい。
- ④－3 村道 1-20 号線については、大型車輛が通行することが可能かどうかの調査、測量、工事が必要だと思うが、工事中の修繕や工事後の復旧までは全て貴社の責任で対応をいただけるという認識でよろしいですか。また、道路構造上の基準についてお示し下さい。
- ④－4 萩の平坑口を非常用進入口として使用することですが、その使用頻度と維持管理について具体的にお示し下さい。

質問⑤ 住民生活や観光客への配慮について

- ⑤－1 萩の平坑口（非常口）の建設が予定されている清内路地区は、村内 8 地区の中でも最も I・U ターンの多い人口増加が期待されている地区です。大型車輛通過台数が現状の 200%相当になり、その状況が数年間連続した場合の影響を懸念しますがどのように考えますか。
- ⑤－2 阿智村は昼神温泉を始めとし、花桃、スキー場、日本一の星空等により、年間 130 万人の観光客を集客しています。阿智村の主要産業である観光事業への影響についてどのように考えますか。
- ⑤－3 阿智村には多くの観光客が訪れることから観光客に対する十分な安全対策が必要と考えます。仮にリニア工事の関係で不快な思いをし、口コミ等により風評が広まると回復には長い時間がかかります。その点も踏まえ観光客に対する安全対策についてどのように取り組まれますか。
- ⑤－4 仮に発生土を積載した大型ダンプが昼神温泉を通過する場合や村道 1-20 号線を通行する場合、歩道の確保やガードレール、ポール、カーブミラー、そして信号機の設置など安全施策は必要であると考えられるが、具体的な安全策についてお示し下さい。
- ⑤－5 村内の道路を大型ダンプが多く通行することで、強く危惧されるのが交通事故

の発生である。特に被害が心配される高齢者や子どもなど交通弱者を守る具体的な対策についてお示し下さい。

- ⑤-6 工事期間のうち、路面凍結や除雪作業時の交通渋滞が発生する冬期に大型ダンプが絡む交通事故を心配する住民の声があります。冬期における安全対策をお示し下さい。

質問⑥ 水資源について

- ⑥-1 山梨実験線近隣での河川水枯れ、地下水枯渇があると聞いている。水資源の事後調査は、工事前、工事中、工事後行うとしているが、阿智村ではどこで、どのように行うのか具体的にお示し下さい。また、事後調査の工事後 3 年間の根拠について改めてお示し下さい。
- ⑥-2 河川の減水、異常出水による被害の基準判断は、何を以て決めるのか具体的にお示し下さい。

質問⑦ 環境保全について

- ⑦-1 貴社としてリニア工事について地元住民に配慮、留意していることは何ですか。
- ⑦-2 阿智村への配慮や留意点は何ですか。また、配慮、留意する事項についての軽減策や代替案を具体的にお示し下さい。
- ⑦-3 リニア工事に関して阿智村が被る環境への悪影響はどんなことが考えられるか具体的にお示し下さい。
- ⑦-4 悪影響が出た時の責任対応とリニア工事との因果関係についての調査はどこがするのか具体的にお示し下さい。
- ⑦-5 発生土の運搬に伴う自然環境、居住環境、地域経済等への悪影響回避のために現在の運搬計画以外の代替案等の検討はされていますか。

質問⑧ 損害に対する補償について

- ⑧-1 昨年の学習会において、「水の枯渇について補償の考え方は非常に難しい。国が行ってきた公共工事の基準でやっていく事が公平で適正な補償である。また、万が一何かあった時の補償については必要であれば、公共補償に基づいて文書を残すことはできる。」と説明されたが、事後調査終了後や運用開始後に水の枯渇等が生じた場合も同様の補償の対応は可能ですか。
- ⑧-2 地震、豪雨等自然災害により隣地に影響を与えた場合の責任の判断基準についてお示し下さい。
- ⑧-3 以前より「観光業に対する補償は考えていない」「経済損失に関するモニタリングは実施する考えはない。また、手法は持ち合わせていない」と説明されているが、万が一工事に起因して昼神温泉等の観光産業が重大な損害を被ったとしても貴社としては補償を一切行わない考えですか。

- ⑧-4 リニア工事と観光事業に関わる影響や因果関係について、何を持って判断されますか。
- ⑧-5 リニア工事との因果関係の調査について貴社で行う用意はありますか。行わない場合、村が必要と判断し実施した調査の費用負担はどのようにお考えですか。

質問⑨ その他の質問事項

- ⑨-1 阿智村では自治会や地区振興協議会が中心となって、住民が住み続けたいと思える集落や地区の将来像を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っている。その結果、村内の各地で成果が生まれ、I・U ターン者が移り住み、将来人口増加を期待できる状況にもある。阿智村の将来を考えた場合、発生土の運搬が各地区の地区計画や振興事業の阻害要因とならないように強く要望するが、貴社の考えをお示し下さい。
- ⑨-2 阿智村村民がリニア工事により被るリスクに対し、貴社として阿智村に対しどのような協力、支援ができるのか具体的にお示し下さい。
- ⑨-3 貴社におかれては今回のリニア中央新幹線整備計画について、発表した工期と総事業費を不動のものとし、それを理由に住民の要望や代替案を排除してきたと思われる経過があったと考えます。しかし今回、政府は本整備計画に対して財政投融資を活用し 3 兆円規模の融資をすると発表しました。これにより当初の計画より貸付金利が約 1/10 と大幅な JR の負担軽減が図られることになったと認識します。

財政投融資を受けることによって生じる財政的余裕は、住民の要望や代替案に対して反映されるものと考えて良いでしょうか。

以上